

# 新岡垣風土記

第454回

## 野間村の孝子・彦市

岡垣歴史文化研究会 羽山 健一

『秋武文書』(山田区の秋武光男氏所蔵)に、郡役所が野間村の彦市に宛てた文書があるので紹介する。

- 彦市二御逢之御衆
- 大御家老 黒田次郎太夫殿
- 御家老 立花吉右衛門殿
- 御家老 斎藤忠兵衛殿
- 御家老脇 月成茂左衛門殿
- 前御家老 黒田吉左衛門殿
- 前御家老 立花平太夫殿
- 中老 遠賀郡預り
- 野村太郎兵衛殿
- 儒者 貝原久兵衛殿
- 梶原八郎太夫

正月八日

野間村

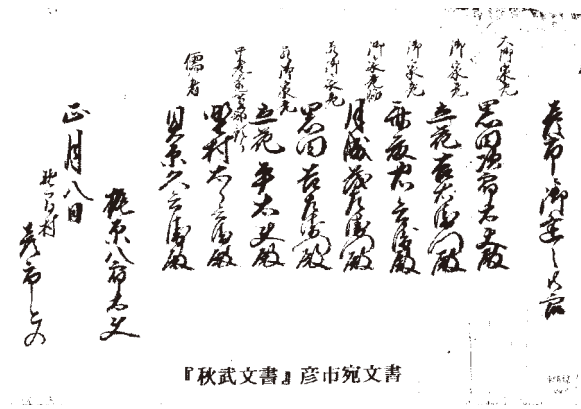
彦市との

この文書は、元禄7(1694)年の春、藩庁から善行者表彰される彦市に、藩側の式典出席者

を通知した文書である。大家老(大老)の黒田次郎太夫重敬は、知行1万7千7百19石の次席家老である。ちなみに筆頭家老は、大老職を世襲する三奈木黒田家の黒田三左衛門一貫である。家老の立花吉右衛門増弘は知行6千3百70石、斎藤忠兵衛貞則は知行4千石、家老脇(見習)の月成茂左衛門重治は知行2千石である。中老の野村太郎兵衛祐春は、知行6千8百60石で遠賀郡の統轄責任者である。儒者の貝原久兵衛篤信は『養生訓』や『筑前国統風土記』の著者・貝原益軒で、文書を発信した梶原八郎太夫は遠賀郡担当の郡奉行である。次に、彦市の善行者表彰に関する史料を列挙する。福岡藩黒田家の記録である『黒田新統家譜』元禄7年の条に、「遠賀郡野間村彦市と云農民、善行あるに依て、褒美を賜はる。」とある。

また、寛政3(1791)年に幕府が全国の善行者を集録した『孝義録』巻43筑前国上に、「奇特者・同領遠賀郡野間村・百姓・彦一・四十八歳・元禄七年褒美」とある。さらに、『筑前孝子良民伝』に、「遠賀郡野間村の農民彦一、上をうやまひ、公役をつゝしみ、両親に孝を盡し、下人に憐憫を加へ、人に交る事信実にして、甚、耕作に心を用ゆ、善行福岡に聞えて、元禄七年の春、褒賞として八木十俵賜る。」とある。『遠賀郡誌』は、「孝子野間村農彦一、姓は白石(現戸主与市)家世々農を業とし上を敬ひ公役をつゝしみ、両親に孝を尽し人に憐憫を加へ、人に交る事信実にして尤も耕作に心を用ゆ、其善行福岡に聞え元禄七年の春褒美として八木拾俵を賜はる。」と記す。右の史料で、名前を彦市又は彦一と記すが同一人物である。褒賞八木10俵の八木は、米の異称で、米の字を2字に分解して八木と記したことに由来する。筑前俵で米10俵は、玄米3石3斗のことである。元禄7(1694)年の春、福岡藩から善行者表彰される野間村の彦市に山田触大庄屋、野間村の庄屋・組頭が付添い、藩庁に向いたのであろう。式典では、藩政担当の重臣列座の中、抜群なる善行を表彰され米10俵

を賜ったのである。『遠賀郡誌』は後段で、「彦一：の行状右に止らず、必ず善行の逸事も多かる可けれども多くの歳月を経て尋ぬるによしなれば該編のまゝを記しぬ。」と記載している。白石彦市さんの善行の詳細は不明であるが、筑前領民の模範とする善行だったことは、史料が証明するところである。



『秋武文書』彦市宛文書

▶「秋武文書」彦市宛文書